

# 成人漏斗胸症例に対する Nuss 法の問題点とその解決策の変遷

松山心臓血管病院胸部外科

笠置真知子, 笠置 康

研究速報

成人漏斗胸症例に対する Nuss 法の問題点とその解決策の変遷

松山心臓血管病院胸部外科

笠置真知子, 笠置 康

キーワード Nuss 法 : Nuss procedure, 成人漏斗胸 : Adult case

I. はじめに

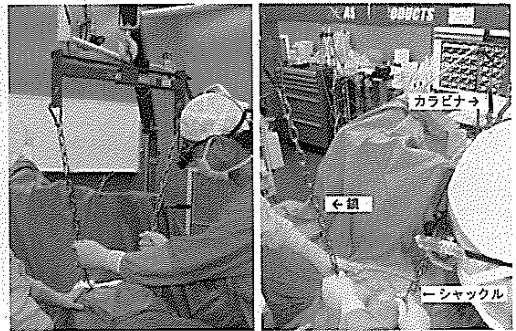
15 歳前後以上の成人漏斗胸症例に対して Nuss 法<sup>1)</sup>を行う際、前胸壁が強固である為、Pectus Bar 又は Chestway plate (以下 bar とする) を 180 度翻転する事は、小児の様に容易で無く<sup>2)</sup>、胸骨鑢転術<sup>3)</sup>に術式を変更せざるを得ない事がある。我々は解決策を考え、より安全且つ確実に施行する工夫をしてきたので、報告する。

II. 手法・手技の改善

初期の方法は、bar を挿入した後に、両側の孔に先端が鈍のタオルクリップを掛けて、これを牽引挙上した。この操作で肋軟骨は多発骨折を来して、肋軟骨は軟らかくなる。しかしながらタオルクリップは鋸物であり、強度の問題が考えられた。第 2 の方法は、ヨット様シャックルに筋肉トレーニング用ハンドルを取り付け、これを牽引挙上する事で、強度の問題は無くなった。当初は挿入する bar を持ち上げていたが、bar 自体の変形を考え、専用の胸骨挙上用 bar を用いて前胸壁挙上後、bar を交換して、180 度翻転した。第 3 の方法は、胸骨挙上用 bar にヨット用シャックル、鎖、カラビナを取り付けた物をエンジンジャッキに接続し、手術台を下げ、またエンジンジャッキを上げる事により、前胸壁を挙上した。この後 bar を交換し 180 度翻転した。

III. 成績

平成 19 年 12 月より平成 20 年 6 月迄に 24 例の前胸壁をエンジンジャッキで挙上し、全例において円滑に Nuss 法を施行し得た。



エンジンジャッキによる前胸壁牽引挙上

IV. 結 論

成人漏斗胸症例において、Nuss 法を施行する場合には、充分に前胸壁を軟らかくしてから bar を 180 度翻転する事が必要不可欠である。この事から、エンジンジャッキを用いた本法は有用である。

文 献

- 1) Nuss D, Kelly RE Jr, Croitoru DP, et al : A 10-Year Review of a Minimally Invasive Technique for the Correction of Pectus Excavatum. Journal of Pediatric Surgery, 33 (4) : 545-552, 1998.
- 2) Hebra A, Swoveland B, Egbert M, et al : Outcome Analysis of Minimally Invasive Repair of Pectus Excavatum : Review of 251 cases. Journal of Pediatric Surgery, 35 (2) : 252-258, 2000.
- 3) 和田寿郎, 笠置 康 : 漏斗胸とその外科治療—1100 例の外科治療から—。小児外科, 14 (9) : 1149, 1982.
- 4) 笠置 康, 斉藤真知子, 和田寿郎 : 胸郭変形疾患に関する外科治療。日本胸部臨床, 45 (3) : 183, 1986.

NEW METHOD FOR THE ELEVATION OF THE ANTERIOR CHEST WALL UNDER GOING SURGICAL TREATMENT OF THE PECTUS EXCAVATUM IN ADULT CASES USING NUSS PROCEDURE

Machiko Kasagi and Yasushi Kasagi

Department of Thoracic Surgery, Matsuyama Cardiovascular Medical Center, Matsuyama, Japan

© Japan Surgical Society Journal Web Site : http://journal.jssoc.or.jp